

釜石市唐丹町本郷の復興に向けた取り組み

樋本 圭佑¹・安田 成夫²・鈴木 進吾³

¹ 京都大学防災研究所

E-mail: himoto.keisuke.5u@kyoto-u.ac.jp

² 京都大学防災研究所

E-mail: yasuda.nario.6r@kyoto-u.ac.jp

³ 京都大学防災研究所

釜石市唐丹町本郷は、1933年昭和三陸大津波の後に高台移転を果たしたことで知られる集落である。2011年東北地方太平洋沖地震では津波による大きな被害を受け、建物被害率は37.9%の上った。津波によって家を失った世帯は、現在、仮設住宅等での生活を余儀なくされており、一日も早い住宅の復興が待たれている。しかし、復興に向けた取り組みは必ずしも順調に進んでいない。本発表では、本郷における復興がどのような経過を辿ってきたのかを概説し、今後どのような対応が必要となってくるのか議論する。

キーワード：東日本大震災，津波，復興